

さやまの昔ばなし

35

このコーナーでは、昔から市内で語り継がれている言い伝えなどを、池原さんの流の描画で紹介します。



竹世井のタケ坊カッパの話
昔のお話です。水宮の竹世井のタケ坊が淵へ村の子どもが遊ばせにきましたところ、今までの見たことのない小な子どもが泳いでおりました。二人はすぐ仲よくなりました。そのうち村の子どもは腹がへってききましたので「おれまはま食って」といって家へ帰りました。そして、すぐタケ坊が淵にもどってきますと、タケ坊の子どもが「あまななにと食って来た」と言いました。竹世井のオニギリを食った」といいます。「そんな女とはいじょうに遊ばせ」と水の中へ投げ込んだようです。子どもの正体はカッパであらうのにおいがない。だから村の子はカッパに食べられずに助かったのだ。

題字・絵・文／池原昭治氏

池原さんのプロフィールやほかの作品はこちら▼



編集後記

狭山市入間川七夕まつりの季節がやってきます。昨年は3年ぶりの開催となりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、実施を取り止めたイベントがありました。今年、七夕の関係者の皆さんは「令和元年にやっていた七夕を復活させる！」を合言葉に準備を進めてきたという話を聞いています。この「令和元年の七夕」とは、多くの方が思い浮かべる風景、つまり「飾り」・「花火」・「露店」の全てがそろったものです。

私事ですが、広報紙の編集に従事する前は、七夕に関する業務全般を担当していました。戦後初めて七夕の中止が決定し、少しだけ悔しい思いをした令和元年の冬から早いもので約3年半。今年、いつもの七夕の風景が帰ってくることをとても感慨深く感じています。

広報さやまへのご意見・ご感想は
はがき・メール・FAXで広報課へ

- 〒350-1380 狭山市入間川1丁目23番5号
- koho@city.sayama.saitama.jp
- TEL 04-2953-1111 FAX 04-2953-1117

公式ホームページ

公式 Facebook

公式 Twitter

LINE 狭山市LINE 公式アカウント ID:@citysayama

この広報紙は再生紙を使用しています。